



## 町長室から 工藤 秀一

年間20万人が訪れる通潤橋は、熊本地震の影響で、通水管の漆喰が損傷し、漏水するため、観光の目玉である放水ができない状況です。

通潤橋が築造されたのは1854年、今から160年以上前に、旧東陽村（現在の八代市の一部）の「種山石工」の協力を得て建造されました。その「種山石工」を含め、各地に残る石橋建造に関わった「肥後の石工」の中でも、特に優れた石工と評されるのが橋本勘五郎です。通潤橋建造の棟梁である「宇一」の弟で、通潤橋建造時は副棟梁を務めていました。橋本勘五郎は、後に明治新政府の土木寮御雇となつて、有名な「浅草橋」「万世橋」などを架けています。

その橋本勘五郎から数えて5代目、勘五郎の玄孫（やしやご）にあたる橋本幸一さんが9月27日に来町され、被災した通潤橋の復興支援にと多額のご寄附をいただきました。橋本さんは、旧東陽村の村長で、現在は、八代市議会議員をされています。実は、橋本幸一さんは、9月14日にも八代市の副市長に同行し、八代市からの通潤橋の復興支援金を届けに来られていました。その折、復旧工事の課題などを聴かれ、『橋本勘五郎の子

孫として通潤橋の復興を応援したい』との強い思いを家族で話し合われ、再び、寄附金を持参されたものです。そのお気持ちの本当にありがたく、通潤橋がなくなぐ、この縁に感慨を深くしたところです。

通潤橋は、「我が国における最大規模の石造水道橋」として、昭和35年に国の重要文化財の指定を受けましたが、現役の農業用水路橋でもあることから、建造当初から、地元「通潤土地改良区」の力で連続と維持管理作業が行われてきました。今回の通潤橋の修復は、通水管（石管）の接合剤となる漆喰の詰め替え作業が重要となりますが、伝承されてきた漆喰の配合や詰め替えに係る技術など、地元

の協力は不可欠となります。また、その修復作業のほとんどが手作業のため、工事期間も長くかかると予想されています。この漆喰の詰め替え作業は、非効率な手法だと思われがちですが、建造当時の技術を伝えていくために重要なことであり、そのことが、通潤橋特有の価値を未来へと繋いでいくものと信じています。

放水が再開できるまでには相應の時間が必要となりますが、町民の皆様方には、ご理解をいただきますようお願いいたします。

## 地震関連被害と認識を

10月18日、工藤町長、岡本副町長、藤吉教育長ほか一行で熊本県庁を訪れ、「熊本地震・梅雨豪雨」に対する要望書を提出し、意見交換を行いました。

本町の被害は、熊本地震による公共土木施設や農林業被害が総額約19億円、豪雨被害による被災総額は約136億円に上ります。

工藤町長は、「4月の地震で緩んだ地盤に6月の豪雨で大量の雨水が侵入し、被害が広がったため、地震関連被害として認識して欲しい。」と要望し、豪雨による被害も地震被害と併せた復興基金の拡充を強く求めました。

その後、熊本県教育委員会を訪れ、「高校入学者選抜学区における県外枠5%の見直し」について要望書を提出し、同一生活圏で育った宮崎県境の子どもたちが、本県への進学が制限されていることが矢部高校の入学者の減少にも関わる一つの要因であることを訴え、規制枠の見直しを要望しました。



工藤町長（左）、坂本知事公室長（右）



越猪教育指導局長（左）、工藤町長（右）



意見交換会の様子

## 食農科学科・緑科学科2年インターンシップ

10月4日（火）～7日（金）にかけて、食農科学科2年生23名、緑科学科2年生4名が職業体験を行いました。生徒が自ら興味のある職業を選択し計19事業所で実習が行われました。

### ○インターンシップを経験しての生徒感想

#### 食農科学科2年 亀谷さん（清和中出身）

私は、インターンシップでサンライズホームセンター矢部店に行きました。私は、品出作業を三日間やり、ずっと立ちっぱなしだったので、とても疲れました。私の親は、こんなきつい仕事を弱音も吐かずにやっているの、すごいと思いました。将来仕事をする上で、お客様の対応や、仕事仲間との人間関係など大事なことを学べたので良かったです。



肥後やまと会で野菜の仕分け作業

#### 食農科学科2年 後藤くん（蘇陽中出身）

私は、就業体験で肥後やまと会に行きました。この会社は生産者が生産した農作物を事務所に集め仕分けをして、いろいろな店などに出荷をする流通の場でした。私は、社員の方だけではなく、生産者の方とも相談しながら、今後について考えている姿を見て、改めて協力することの大切さを学ぶことができました。就業体験で学んだことをこれからの進路や日頃の学校生活に繋げていきたいです。



森林組合での伐倒作業

#### 緑科学科2年 山崎くん（矢部中出身）

私は、三日間森林組合でインターンシップを行い、たくさんのお話をさせていただきました。特に森林組合の仕事は山での仕事が多く、危険なところもありましたが、木の伐倒など安全に作業できることができて良かったです。この体験を学校での実習等に活かしていきたいと思いました。

#### 緑科学科2年 木村くん（砥用中出身）

今回、私は三日間尾上建設でインターンシップを行いました。仕事を体験していく中で、尾上建設の方は「安全確認」を特に大事にしているのが分かりました。月に一回行われる会議でも「安全確認」の事を多く話されていました。この体験を活かして今後の進路活動をしていきたいと思いました。

## 石橋石工体験研修 ～緑科学科2年～

10月14日（金）に石橋石工体験研修を行い、緑科学科2年生4名が参加をしました。座学の講師では、尾上建設の尾上様、東陽石匠館元館長の上塚様に、石橋の歴史や技術概要説明を行っていただきました。実習では、日本の石橋を守る会の方々に石材加工の技術指導を行っていただきました。



### ○研修を受けての感想

#### 緑科学科2年 松永くん（砥用中出身）

普段しないような、石を割って表面を平らにする研修をしました。ハンマーとノミを使って石を割るのがとてもきつかったけど、石がきれいに割れたときは嬉しかったです。貴重な体験ができて良かったです。

#### 緑科学科2年 坂口くん（砥用中出身）

石橋石工体験研修を通して、石橋の歴史や製作までの過程を知ることができて良かったです。一つの石を割って、削るまでの作業がとても大変でしたが、石を綺麗に削り終わったときは、達成感がありました。

今回の研修で、石橋がどのように造られたかが分かり、石橋に対する見方や思いが変わりました。